

特集にあたって

ショックは、生体にとって危機的な病態であり、“いかに早く離脱するか”が最重要課題です。したがって、初療医（救急医，集中治療医，一般医師問わず）が迅速かつ的確に診断・蘇生することが求められ，まさに“時間との戦い”といえます。しかしながら，最初から原因が明らかなショックはなく，初療では手探り状態で治療を開始するケースが多いのも事実です。難治性のショック患者を前に，どのポイントを優先的におさえることで鑑別・治療の道が開けていくのか，すなわち“救命へのアプローチ”を知っておくことは初療にあたるすべての医師にとってきわめて重要です。

本特集では，ショック患者の治療にあたる医師（救急医，集中治療医，当直医）に，実際の症例を通して思考や決断のプロセスを時系列で追体験してもらうことで，ショック離脱のターニングポイントを1つでも多くつかんでいただくことを目指しています。そこで，救命救急の第一線において活躍中の先生方に，診療過程における実践的な思考過程をお示しいただき，**迅速かつ間違いのない初期対応**につながる“救命へのアプローチ”を解説してもらいました。あわせて，ショックの診断・治療におけるここだけは**外せないポイント**，診療現場における**Clinical Questions**，自施設でのちょっとした工夫やコツにも言及していただき，実際の日常診療のなかで繰り返し参照できるよう配慮しました。

是非，明日からのショック診療に最大限生かしていただきたいと願っています。